

なかがわ 議会だより

No **154**

2025.12

▶発行/中川町議会 編集/議会広報特別委員会



10月24日 町議会調査で岐阜県飛騨市を訪問、瀬戸川と白壁土蔵街にて市議会事務局職員と

主な 内容

- 岐阜県飛騨市と石川県川北町で地域振興の課題を調査
- 第3回定例会【一般質問2氏】
- 令和6年度決算審査、監査の総括意見
- 上川町にて議員報酬と交流施設を調査
- 公共施設建設調査特別委員会の開催状況
- 議会日誌、編集後記

議会でも道外調査を実施 地域振興の手法を学びました

町議会では10月22日から4日間の日程で、議員7名が岐阜県飛騨市と石川県川北町を訪問し、飛騨市ファンクラブの運営や、ボランティア運営、川北町の農業の6次産業化の取り組みなどについて、関係者と意見交換するなど調査活動を行いました。

まちのファンを取り込み、 経済効果につなげる

飛騨市は平成16年に2町2村が合併して誕生した、岐阜県の最北端に位置する人口2万1千人の市で、ユネスコ無形文化財に登録された「古川祭」などがあります。

いわゆる観光地ではありませんが、2016年に大ヒットした新海誠監督のアニメ映画「君の名は」の舞台となったことから、映画ファンの訪問が急増しました。市ではファンとコミュニケーションを取るとうと飛騨市ファンクラブを創設し、その後も、市に関心のある方を取り込み、現在約1万7千人の会員数となつてい

ます。

ファンクラブでは、会員証や名刺、宿泊施設の割引、商店や飲食店などの割引クーポンがもらえます。また、オンラインショップや県外でのファンクラブの集い、部活動、勝手に支部制度などを実施し、会員と市が繋がる工夫を凝らしています。また、ふるさと納税を積極的にPRし、昨年度は会員だけで約1600件、5千万円の寄付額を呼び込んでいます。

議員からは「どのような情報発信をしているのか」「ふるさと納税返礼品の新たな発掘の方法は」など様々な質問が出されています。

中川町のファンクラブで

も、仕組みや情報発信など学ばべきところが多く、議会活動の中で町と共にファンクラブを盛り上げるよう進めていきます。

応援したい人と困りごとを結び付けて解決

ファンクラブで交流を深める中で、「市内で何かお手伝いをしたい」との方が現れたことから、イベントや農作業の繁忙期、里山の手入れや外来種の駆除など、人手が必要な作業に、外部の力を借りる「ヒダスケ!」の運営がスタートしました。

昨年度は、約120のプログラムを実施し、5700名がボランティアとして参加しています。プログラムでは、単なる困りごとのお手伝いではなく、「楽しく交流をしながら助け合いを生み出す」よう組み立てられています。リピート率も31%と高く、参加者からは「地元の方々と交流できて嬉しかった」「市民の熱い思いを知ることができ共

感できた」との声が聞かれ、依頼した住民からは「継続的なつながりが持てた」「飛騨を愛する方たちと出会えてうれしい」との声が上がっているそうです。



飛騨市役所でファンクラブ等を調査

議員からは、「交流人口の増加に向け更なる計画はあるのか」「移住定住に繋がっている実感は」「民間や役所の職員採用にプラスになるのでは」など質問や意見が出され、担当課の職員らと活発な意見交換が行われました。

飛騨の町並みや 歴史に触れる

また、駅周辺にはいくつもの観光資源が整備されており、「瀬戸川と白壁土蔵街」「古川まつり会館」や、薬草による健康改善を市民に広める施設「ひだ森のめぐみ」も訪問してきました。

【佐々木英和議員】

ふるさと納税では、特産品の魅力発信に加え、寄附金の使途の明確化や、市民や寄附者が地域づくりに参画体制を整えていると聞き、地域資源を活かした交流促進と、財源確保の両立が地方創生における重要な鍵であると認識した。今回の学びを本町の施策検討に活かしていきたい。

【今野大樹議員】

ファンクラブのシステムは観光、ふるさと納税、関係人口の増加など大きなメリットをもたらしている。一方で「飛騨」というブランドはあるが、ふるさと納

税制度の厳格化で苦勞されていることもわかり、小規模地方自治体が生き残るためには職員と住民が一緒にアイデアを出し合うことが必要と感じた。

【若山真一議員】

プロジェクトの推進では、テーマを掲げて「まずはやってみる！」。この言葉に感銘を受けたので、中川町もこの空気感になるように努めてまいります。

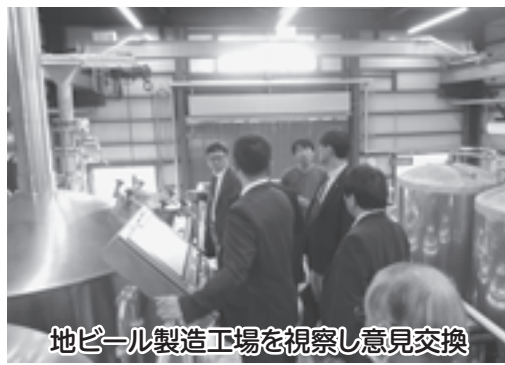
【佐藤輝雄議長】

歴史や伝統文化とともに暮らす町並みに感銘を受けました。合併を乗り越え、人口減少、人手不足などの課題に果敢に立ち向かう姿勢は見習うべきもので、今回の調査は議員の意識向上にも繋がったと思う。

農業と商業が融合して、 地域振興の原動力に

石川県川北町は、人口約6千人の水田が連なる平地農村の町です。

調査に訪問した同町の「旬わくわく手づくりファーム川北」は1998年に設立された正社員11名、パート5名の農業法人です。事業内容は、農産物の生産や農作業の受委託のほか、収穫した麦類を原料に、地ビールの製造販売を行い、年間売り上げは約2億6300万円です。



地ビール製造工場を視察し意見交換

設立当時は経済不況や水田転作、異業種交流、町の観光施策など条件が重なった。各地の地ビールを参考に、自分で作った麦でビールを作れば差別化が図られ軌道に乗るだろうと見込んだとのこと。

しかし、思うようには売れず、苦しい時期が続いたが、北陸新幹線の金沢駅開業をチャンスと捉え、JRW西日本に売り込み、更なる設備投資を行い、瓶ビールから缶ビールに切り替えたことがその後の業績向上に繋がったそうです。

その後も、小ロット対応の設備の導入や、イベント限定缶や企業の記念ビール、地域限定缶などの提案型の商品開発で売り上げを伸ばしてきています。

同法人の入口博志代表は「お土産主体から高級品の割合を高めようと百貨店に売り込みを進めている」「一流企業は難しそうと避けずに挑戦すること」「売り場を確保してから投資や補助金確保をスタートさせること」など、成功の秘訣を説明してくれました。

議員からは「アメリカ輸出は不採算と聞いたが、継続する理由は」「賞味期限と製造のタイミングは」「道内の売り場確保のヒントは」などの質問がなされました。

本町でも、牛肉やチーズなどの製品化の取り組みが行われていますが、大変参考になる調査となりました。議会活動にこの知見を活かしていきます。

【平木総司議員】

入口代表からは、営業先での裏話や販売の工夫などの他、「地域産業の振興の原動力となる企業を目指す」との企業理念を伺いました。本町の農業の6次産業化でも出来ることからでも考えてみたいと認識しました。

【植村美記夫議員】

地域の農産物を使った地ビールを造り、自分たちの土地を守りながら後世に残せるようにPRしているのに感銘を受けました。本町においても見習うべき点がたくさんあると思います。

【菊地広幸副議長】

パソコンや資料で事前学習してきたつもりだったが、説明や意見交換、設備見学を通して、文字を超える多

くの事柄を理解し、吸収できた。本町の政策に還元できるよう努めていきたい。

世界遺産白川郷や北陸 の歴史的施設を見学

調査ではこの他にも、合掌造りの里として有名な白川郷や、江戸時代に作られた日本を代表する庭園の兼六園、金沢市民や観光客で賑わう近江町市場、重要文化財の丸岡城を限られた時間でしたが視察することができ、見分を広めてきています。



飛騨市の薬草活用の取り組みを学ぶようす

◆第3回定例会◆

令和7年第3回定例会は9月10日招集され、会期を9月30日までの21日間とし、2議員の一般質問、承認1件、同意1件、報告2件、条例改正1件、規約変更3件、予算補正2件、認定6件、意見書1件、会議規則4件を議決し、閉会しました。



第3回定例会の様子

頻発するヒグマの出没に、

2氏が一般質問



昨年、大富地区の畑で
監視カメラが撮影したヒグマ

ヒグマの目撃や痕跡の情報が増加傾向にあります。議会では、これまでも、農作物被害や緊急時の対応について町と協議を行ってきました。今年には全国各地で人的被害の増加もあり、植村美記夫議員、若山真一議員が、町内での対策について一般質問を行いました。（詳細は、7～8ページをご覧ください）

主な議案の審議結果

【承認】

▼令和7年度一般会計予算
補正の専決処分（8月8日
専決）

【原案可決】

市街地周辺でヒグマの出没が相次いでいることから、秋味まつりの安全確保のため対策費を追加しました。イベント広場の除草・電気柵設置費ほか212万円、電気柵の購入106万円を追加し、予算総額を42億129万円としました。

【選挙】

▼中川町選挙管理委員会の
委員と補充員の選挙

【当選者は次のとおり】

委員

谷口充洋さん、立松潤也さん、三井遥佳さん、藤森厚子さん

委員補充員

服部一雄さん、菊田浩司さん、佐武ひとみさん、野々村洋子さん

【同意】

▼中川町教育委員会委員の
任命

【同意】
椿本寿美さん（再任）

【予算】

▼令和7年度中川町一般会
計予算補正 【原案可決】

■主な予算の《追加》

- ・日大連携強化業務委託 307万円（不足する町内の人材確保のため、インターンシップや学生ボランティアの募集、情報発信の強化を行います）
- ・旧大永建設拠点プラン開発委託 160万円（交流拠点施設として整備するため、什器や備品の計画を策定します）
- ・多文化共生構築作業委託 170万円（外国人材の受け入れと受入マニユアルの整備を行います）
- ・有害鳥獣捕獲対策 211万円（ヒグマ対策のため、ドローンの購入及び操縦資格取得、ヘルメット、防護盾、デジタル無線機などの購入費用です）



ヒグマ対策で購入したドローン、無線機、ベストやヘルメットなど

- ・特産品販路拡大補助 257万円（返礼品保存用冷蔵庫の購入、冊子等の広告宣伝費用です）
- ・桜つつみ公園及び森林公園ほか除草費用 162万円（ヒグマの出没が頻発していることから、年1回の除草を2回に増やします）
- ・公営住宅修繕料及び宮繕工事費 900万円（入

居希望者の増加に対応します）

その他にも、公共施設の修繕や光熱水費の追加などを行っています。

歳入と歳出に、3800万円を増額し、予算総額を42億3930万円としました。

質疑応答

問 新たな事業が補正で追加されているが、スクラップ&ビルドを徹底すべき。下高井戸のナカガワのナカガワを見直すべきではないか。

答 ナカガワのナカガワは、収支が苦戦している。効果の検証が必要と監査委員からも指摘されており、他の事業も含め事業の検証と評価を行う。

問 築堤の桜つつみや森林公園の管理が以前より簡素になっているのではないか。

答 維持管理と費用のバランスをとるため、管理面積の縮小や除草回数を減らすなど行ってきた。補正ではヒグマ対策として除草回数を1回増やすもの。

問 エコミュージアムセンターのフリーニング代が追加補正されているが、施設利用料が低額でありバランスが取れていない。

答 経費の節減に努めているが、物価も高騰している。

町の財政も厳しく利用料の見直しに着手したい。



エコミュージアムセンターを研修で訪れた中学生

問 旧大永建設の交流施設への改修については、議会でも栗山町と上川町の交流施設を視察してきた。両施設とも運営費の捻出に苦労しているが本町の考え方は。

答 財源については国の移住定住施策や特別交付税の活用なども視野に検討する予定。施設の利用プランについては、町民の声を聞きながら策定を進めている。

問 地域おこし協力隊が20数名いるが、広報紙だけでは隊員の活動が見えない。町

民との距離感を縮めないと不安や不信に繋がる。改善が必要ではないか。

答 旧大永建設の改修については、協力隊も含めた町内外の交流を目的としている。その他にも住民との距離感の改善に向けて取り組んでいきたい。

その他の会計についても、次の内容で原案可決されました。

- ・介護保険特別会計 1139万円の増額（前年度の国・道負担金の確定に伴う返還金の追加）ほか



地域おこし協力隊の活動報告会

【意見書】

▼国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

【関係各位に送付】

要旨…北海道は豊かな自然や再生可能エネルギー、農林水産物、観光資源など多くの強みを活かし、持続可能で活力ある地域づくりを目指している。一方で、道路網には高規格道路の未整備、自然災害による交通障害、老朽化、冬季の除排雪体制の不安定さなど多くの課題がある。これらを解消し、生産性向上や災害対応力の強化を図るためには、



バリアフリーに改修された1区の歩道

道路整備や維持管理の着実な推進が不可欠である。地方財政の厳しさや資材・人件費の高騰にも対応しつつ、長期安定的な予算確保が求められる。国には、巨大地震や気候変動による災害への備えとして、道路網整備や除排雪体制の充実など、国土強靱化に向けた特段の措置を講じるよう強く要望する。

【継続調査】

▼閉会中の継続調査の申し出（総務常任委員会）

■事件

- 1 福祉施設のあり方について

- 2 少子化に対応した学校教育について

- 3 総務常任委員会にかかわる施策について

■期限

令和7年第4回定例会まで

【継続調査決定】

▼閉会中の継続調査の申し出（経済常任委員会）

■事件

- 1 地場資源の活用と地場

産業の振興

- 2 働き手不足の解消策について

- 3 経済常任委員会にかかわる施策について

■期限

令和7年第4回定例会まで

【継続調査決定】

▼閉会中の継続調査の申し出（議会運営委員会）

■事件

- 1 本会議の会期日程等議会の運営に関する事項について

■期限

令和7年第4回定例会まで

【継続調査決定】

【議員の派遣】

▼中川町議会調査（富山県飛騨市・石川県川北町）、上川管内町村議会議員研修会（旭川市）

【議員派遣決定】

一般質問については、次のページより掲載しています。

広報づくりを

全道の町村議員が学ぶ



広報研修会のようす

北海道町村議会広報研修会が札幌市内で8月19日に開催され、広報特別委員会の佐々木委員長と若山委員が参加し、「議会の『見える化』&住民との『信頼築く』」議会の基本と編集」を学んできました。

研修会には、全道各地の町村議会から参加者が集まり、議会報の課題や役割、そして何をどう変えていくべきかを学びました。議会の活動状況を知らせ、政策・制度への関心を高めていただき、住民が議会との「つながり」を実感できるような広報づくりを学びました。

今後も、1人でも多くの住民の皆様は議会だよりに興味、関心をもっていたいただき、読んでいただける広報づくりに努めてまいります。

問

ヒグマ出没に対して、
緊急銃猟制度の対応は？



答

正確な情報発信と、予防・啓発活動の
継続に努めます

若山議員

るか？

近年、国内ではクマによる
人身被害が多発しており
ます。道内においても、ヒ
グマによる人身被害、死亡
者が出るなどの被害が出て
います。

②緊急銃猟への訓練はどの
ようになっているか？
③市街地への出没予防策は
どのようなになっているか？

石垣町長

そんな中、令和7年4月
に鳥獣保護管理法の一部が
改正され、住民の安全確保
を十分に講じた上で、人の
日常生活圏での銃猟をする
ことが可能となる、緊急銃
猟制度が9月1日より施行
されました。緊急時には、
市町村長の判断で緊急銃猟
が可能となりますが、行政
にとってもハンターにとつ
ても町民にとつても、とて
も難しい判断と決断が必要
となる制度がスタートした
と感じています。そこで、
次の点について質問します。
①緊急銃猟制度への対応、
準備はどのようになってい

①9月1日に施行された
鳥獣保護管理法の一部改正
により、地域住民の安全確
保を十分に講じたうえで、
クマなど人身被害の恐れが
高い大型獣について、「人の
日常生活圏」での銃猟を
可能とする緊急銃猟制度が
新たに創設されました。本
制度の実施には、環境省作
成の緊急銃猟ガイドライン
の要件を満たす必要があり、
円滑な運用にはマニュアル
の整備が不可欠です。

令和5年度に策定した
「中川町ヒグマ対応方針」
および「中川町ヒグマ出没
時の具体的な対応について」



若山真一 議員

に緊急銃猟に関する内容を
追加する予定で、現在、関
係機関と協議を重ねていま
す。

また、ガイドラインに基
づき緊急銃猟に必要な備品
の整備も進めます。今後は、
これらの準備を整え、安全
かつ円滑な緊急銃猟体制の
構築を目指して行きます。

②緊急銃猟の訓練は単な
る技術習得ではなく、地域
の安全体制を支える重要な
取り組みです。今後の訓練
では、ヒグマが出没したと
の想定で町、猟友会、警察
が連携し、通報から対応決
定、避難範囲設定、発砲手
順、報告まで一連の流れを
確認します。

8月26日には市街地を想
定したヒグマ駆除訓練を実
施し、警察官職務執行法や
緊急銃猟ガイドラインに基
づく手順を確認しました。

今後も継続的に訓練を実施
し、安全で実効性の高い緊
急銃猟対応体制の構築に努
めて行きます。

③ヒグマの人里への接近
防止は町民の安全確保と地
域生活環境の維持における
重要課題と認識しています。
今年度末までに「ヒグマゾ
ーニング計画」を策定し、
人とヒグマの空間的すみ分
けを図ることで、出没によ
るトラブル抑制と個体群の
存続を両立させる管理手法
を導入します。

計画では、ヒグマリスク
と土地利用に応じて地図上
で対応方針を明確化し、コ
ア生息地、緩衝地帯、防除
地域、排除地域の4つのゾ
ーンを設定。ゾーンごとに
適切な対応を実施し、あつ
れきを最小化します。今後、
地域関係者の意見聴取と情
報収集を行い、共通理解の
もとヒグマ対策の体制を構
築します。

また、令和6年より北海
道の春期管理捕獲事業に参
加し、駆除頭数を定めた個
体数管理を行っており、複

数名で山林に入ること、ヒ
グマに人の存在を認識させ
る「プレッシャー効果」も
期待されています。

農業者には電気柵設置や
ほ場周辺の草刈りをお願い
し、農作物被害防止と生活
圏侵入防止に努めています。
市街地周縁部では高草刈
りや生ごみ管理の徹底、I
P告知端末を活用した注意
喚起や啓発活動を実施し、
事故防止と地域安全の確保
に取り組んでいます。



10月14日に野球場で実施した緊急銃猟訓練

問 厳しい状況の農業を どう解決するのか



答 データの収集と分析・活用する 農業経営を研究中

植村議員

中川町の農業は高齢化と担い手不足、気候変動への対応など多面的な課題を抱えています。更に、業務の非効率な管理体制もあり、生産性と持続性の確保が急務です。今後も農業の労働力不足はさらに進行することが予想されますが、町としてどのような解決策を考えているのか伺います。

究にも取り組んでおります。具体的には、緑肥作物の導入試験や、かぼちゃ・そばとデントコーンの交換耕作による効果検証を実施しています。

また、上川農業試験場から講師を招き、農業者を対象とした研修会を開催しました。

①農家の経験と勘に依存した現在の農業から、データに基づいた農業への転換について

②農業就業人口の高齢化と若者の就農離れについて

石垣町長

①町では、データ収集・分析基盤の整備支援に加えて、データ活用に関する研



植村美記夫 議員

寄付金は農業関係を含め今後の事業に活用する予定です。農業関係では、アスパラガス、そば粉、牛肉、蜂蜜、小豆を使ったロールケーキが返礼品に出品されています。



9月4日に行われた土壌改良現地研修会

問 相次ぐヒグマの出没、その対策は？

答 状況に応じて対処しているが、 町民の協力も不可欠

植村議員

相次ぐクマ出没で今年度

すでに全国で沢山の人が被害にあっており、中川町においてもパークゴルフ場、林業試験場付近、町全体的にクマの出没事例が多く寄せられていると思いますが、中川町としてどのような対策を行っているのか伺います。

①秋味まつりが予定されていますが、どのような安全対策を行っているのか

②個人や地域では、畑や家庭菜園などでクマを誘引してしまうものがあると思いますが、これらの対策について

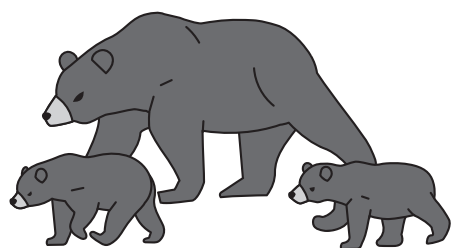
石垣町長

①秋味まつりが開催できるよう、対応マニュアルに沿って必要な対策を実施しています。会場のイベント広場においては、現時点ま

でヒグマの目撃や足跡の確認はありません。

②畑の農産物や家庭菜園の野菜等がヒグマを誘引する要因となる場合には、電気柵の設置をお願いすることとしています。

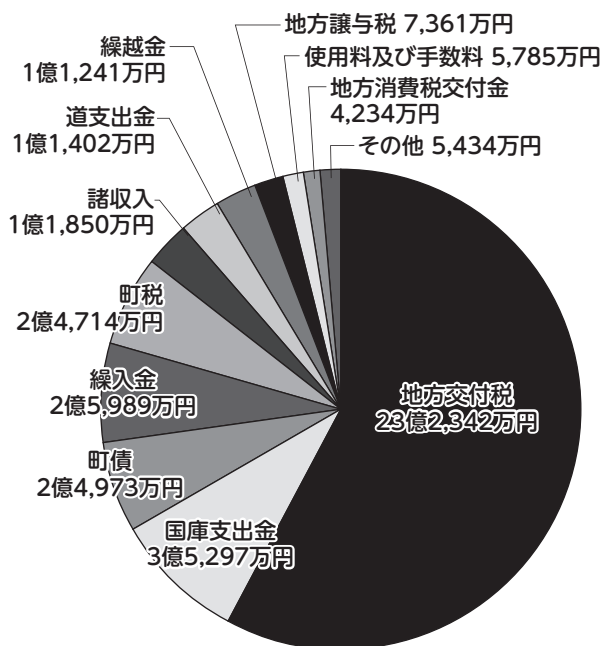
今後も、ヒグマとの事故を未然に防ぎ、安心して暮らせる環境を維持していくためには、行政による対策の強化とあわせて、町民の皆様の継続的なご協力が不可欠であると考えています。



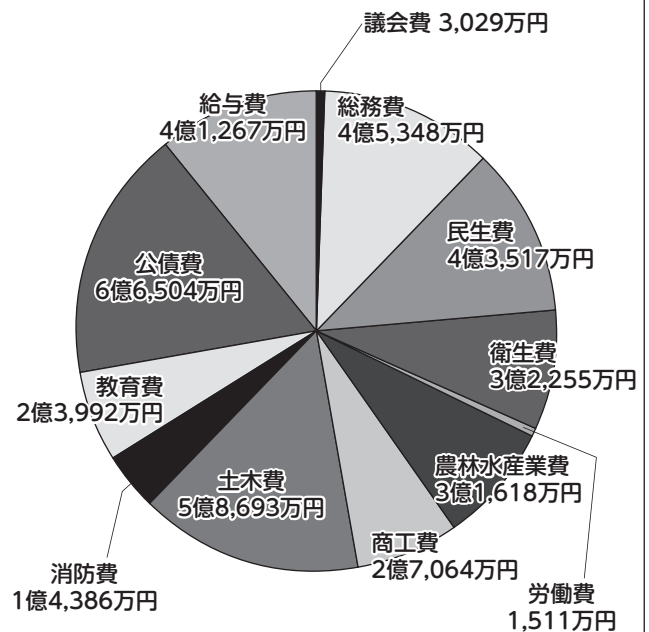
令和6年度決算を認定 事業の見直しで健全財政を

令和6年度中川町一般会計と3特別会計、2公営企業会計の決算審査を、9月29日、30日に行いました。決算書や各種資料、担当課からの説明などをもとに審査した結果、「認定すべきもの」と決定しました。

一般会計 歳入内訳



一般会計 歳出内訳



一般会計とその他の会計の基金残高と町債残高

町の貯金(基金)
15億7064万円

(前年度比 ▲2億578万円)

町の借金(町債)
46億5775万円

(前年度比 ▲4億2368万円)

令和6年度 各会計の決算状況

		収 入	支 出	差 引 額	うち、繰越財源
一 般 会 計		40億 622万円	38億9184万円	1億1438万円	2022万円
国 民 健 康 保 険		1億3989万円	1億3989万円	0万円	
介 護 保 険		2億6550万円	2億6550万円	0万円	
後 期 高 齢 者 医 療		3379万円	3379万円	0万円	
簡 易 水 道	収益的収支	2億6653万円	2億5237万円	1416万円	
	資本的収支	1億 743万円	1億4898万円	▲ 4154万円	
農 業 集 落 排 水	収益的収支	1億3741万円	1億2564万円	1177万円	
	資本的収支	2868万円	5023万円	▲ 2154万円	

(単位未満切捨てのため差引が合わない場合があります)

主な質問事項

歳入全般

(一般会計・特別会計)

問町税に不納欠損額があるが、どのような場合にこのような処理がされるのか。

答滞納者が自己破産した場合などが該当する。安易に処理を行っているものではない。

問公営住宅料が滞納となった場合、徴収のルールなどは定めているのか。

答滞納処理については要綱を作成しており、それに基づいて対応している。文書による催告、督促、自宅訪問、分納誓約、保証人への相談など滞納者を増やさないよう努めている。

問住宅料の滞納が解消しない場合、退去も視野に厳しく対応すべきではないか。

答分納誓約の相談時に、退去や連帯保証人への請求があることを伝えている。

問ふるさと納税は周辺自治体と比較すると金額が少ないが、増加に向けた取り組みは。

答返礼品の開発、登録を進めているほか、企業版ふるさと納税についても各課と連携し、企業へのアプローチを行っている。



ふるさと納税返礼品ガイドブック

問文化・スポーツ施設などの使用料を見直す時期ではないか。収入と支出のバランスが取れていないと感じるが。

答物価や人件費も高騰しており、課題が生じている。適切な費用対効果が図られるよう検討したい。

総務課関係(歳出)

問研修で北海道や飛騨市に職員を派遣していたが、人材育成の面からも有効だと思つ。今後、派遣の計画はあるのか。

答令和7年度は双方の事情により北海道、飛騨市とも派遣できなかったが、今後も継続していきたい。

問利用見込みのない職員住宅の車庫や物置など経費削減のため早期に売り払うべきではないか。

答早期の処分に向け、手続きを進めたい。

問防災の取り組みとして、住民の避難訓練や関係機関と連携した対応訓練などが必要ではないか。

答町内会連合会と町民の避難訓練の打ち合わせを行っている。関係機関とは開発局と連携し、中央小で大雨や浸水体験などの授業を行った例がある。



老人クラブを対象に行った防災講話

問監査委員や農業委員など各種委員の報酬が長期間見直されていないが、今後の方向性は。

答議員や特別職の報酬が一定の基準になると考える。議会での議員報酬の見直し議論を参考に検討していきたい。

問昨年、機構改革が行われたが、部署によって時間外勤務に偏りがあるのではないかと。事務事業評価も担当部署と予算部署が異なり、財政的な観点が悪くなっているのではないか。

答各部署で年度ごとに事業量の増減もあるが、職員配

置と採用などで過度な集中がないよう行う。事務事業評価も、財政規律を持ったうえで持続可能な行政となるよう、職員全体で共有していく。

地域振興課関係(歳出)

問ナカガワファンクラブ事業(委託費180万円)では、会員に対してふるさと納税など経済効果のある情報発信を充実すべきではないか。

答現時点で、町内外あわせて約1200人の会員が登録されている。SNSなどで会員向けの情報発信に努めたい。

問地域おこし協力隊事業では、特別交付税措置を活用しながら約7600万円を投じているが、町民の理解度が深まっていないと感じる。経費の支出についても活動経費と自家用経費が明確になるよう、改善が必要と思う。

答現在、22名の隊員がいる

が、活動が町民に見えづら
いとこの認識はしており、住
民向けの情報発信を今後も
進める。3年間の任期があ
るが、これまで約半数の隊
員が地元に着している。

経費や報告書については監
査委員からも指摘されてお
り改善に向け検討を進める。



協力隊の活動を隊員と町民が
一緒に考えた集まり

問産業PR事業（委託料3
93万円）では、こやのわ
マルシェ、住宅改修体験ワ
ークショップ、特産品開発
などが行われているが、投
資額と効果が見合っていない
と感じるが。

答移住や起業の誘発効果を
狙っており、一定の効果は
あるものと認識している。

タレントによる情報発信も
SNSやラジオで行われ、
町の知名度も向上したと思
うが、事業の在り方につい
ては検討したい。

問人づくり研修では4組の
道内外の視察に合計242
万円を補助しているが、広
報紙にも報告が掲載されて
いない。しっかりした採択
基準と人材育成の効果が生
じる事業となっているのか。
答町民の使いやすさを重視
し、審査、報告、利用の幅
などの制度改革を重ねてき
たが、他の制度とのすみ分
けも含め見直しが必要と思
っている。



人づくり研修でYARDの皆さんが
砂川市内の企業を視察

問ふるさと納税返礼品開発
支援（補助金401万円）
の開発実績と返礼品への登
録状況は。また、地域おこ
し協力隊も補助を受けてい
るが、協力隊の活動費の中
でやれたのではないのか。

答令和6年度は町内外の事
業者から11件の申請があり、
一部は翌年度繰越となつて
いるが、その多くは商品化
されている。総務省の認可
手続きが必要のため、認可
後に随時、返礼品として登
録している。指摘を受けた
協力隊の件については制度
の見直しを検討したい。

問空き家の活用に関し、多
額の投資がなされている。
今後の経済効果も含め、バ
ランスの取れた事業となつ
ているのか。

答従前より農業振興のため
新規就農政策に多額の投資
を行ってきた。コロナ禍収
束後も移住定住や協力隊事
業で一定の成果があったも
のと思う。国・道の補助金
や特別交付税の活用など、
今後、事業の整理を徹底し

たい。

住民課関係（歳出）

問特養の建て替え計画が進
んでいるが、すべて町が建
てるのではなく、社協が借
入して事務所部分を建築す
る方法もあるのではないか。

答社協は法人格があるもの
の、出資等がなく現状では
融資を受けられない。指定
管理業務では経費節減など
企業努力はお願いしている。

問特養の建て替えでは、提
供するサービスと利用者負
担、全体の収支バランスな
どが課題かと思うが、その
検討状況は。

答利用者負担は、現在と同
じ多床室なら負担は低いが、
個室型なら負担は高くなる。
プライバシーを確保できる
形を検討している所。また、
社協全体の収支についても
試算を進めている。

問出生数について、今年度
は現在のところ2人とお聞
きしている。子どもが少な

いと人口減はもちろん活気
も減少する。プロジェクト
チームを立ち上げ、産み育
てたい環境づくりを検討し
てはどうか。



建て替え計画が進む一心苑

答地元へ高校がないことも
あり、制度よりも気持ちの
問題もあるかもしれない。
移住者や協力隊などの意見
も参考に冷静に分析し検討
したい。

問介護保険特別会計につい
て、施設介護サービス給付
費が約1億1千万円あるが、
ほぼ全額が町社協に入るの
か。

【答】介護保険制度では、介護施設が集中する市町村の財政を圧迫しないよう、住所地特例が設けられている。このため、町から転出して町外の施設に住民票を移して入所した場合にも引き続き本町が介護保険の保険者となる。現在10数名分が町外の施設に支払われている。

農林課関係（歳出）

【問】ヒグマの出没が相次いでいる。猟友会には出勤内容に応じて報償費等が支払われていると聞いたが、職員の現場調査や看板設置作業などに危険手当はあるのか。
【答】動物の死がいや直接扱う場合は手当が支給されるが、調査などは支給されない。今後、調査検討したい。

【問】ヒグマの捕獲目的で箱わなの設置基準等はあるのか。
【答】町ではヒグマ対応方針を定めており、それに従い危険度を判断している。猟友会や警察とも協議し、場所や行動などから箱わなによ

る駆除が必要と判断されれば設置する。緊急銃猟制度がスタートしたこともあり、今年度中にゾーニング計画を策定する予定。

【問】単独の農作業機械の共同購入の補助が終了したが、今後復活する考えはあるのか。

【答】町の農業関係の補助事業については、毎年、農業者、農協、町農業再生協議会の意見も踏まえながら、どのような振興策が効果的なのか検討している。予算にも限りがあるので、適切な支援策を模索したい。

【問】畑作は天候に左右され経営が不安定なもの。また、人手不足も大きな課題となっている。町内でもスマート農業の推進を進めてはどうか。

【答】人手不足を乗り越えるためには、スマート農業は必須だと思う。農協、農業者、関係機関の意見や提案などを踏まえ、検討を進めたい。

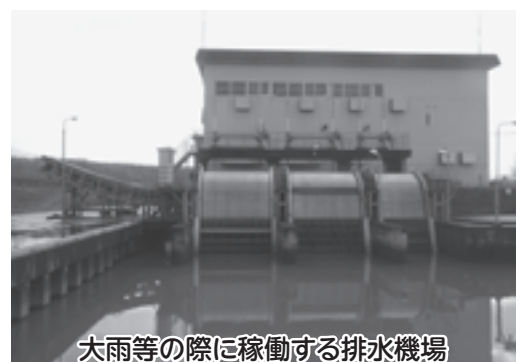
建設水道課関係（歳出）

【問】本町の町道除雪委託料（1億757万円）は他町村と比較した場合どうなのか。また、委託料で約600万円の不用額が生じているがこの理由はなぜか。

【答】除雪委託料は直近5年間の作業機械の稼働時間の平均値を基に積算している。除雪対象区間の延長、委託内容などにも違いがあり比較は困難。また不用額については3月に雪の降り方が少ないと不用額が発生することになる。

【問】営地区の排水機場の運転に基準はあるのか。一部の草地が水没しているのを見かけることもあるが。

【答】築堤内の畑の冠水を防ぐため、内水位9・6メートルで稼働開始するよう定められている。低い農地を所有する方からの問い合わせもあり、河川水位や降雨状況などを確認しながら、1台または2台の運転など対応している。



大雨等の際に稼働する排水機場

【問】公営住宅の空き家について、今後どのような管理や解体を進めるのか。

【答】公営住宅長寿命化計画を定めており、今後の需要予測に基づき、国の補助金を活用して、建築年数が新しいものは長寿命化の改修工事を行い、古いものは計画的に解体する予定。

【問】水道料金の見直し時期はいつ頃を予定しているのか。また、共和地区の戸数があるとわずかなっているが、今後、不在となった場合、水道設備はどうするのか。

【答】水道料金については5年ごとに見直すことになって

いる。年度内に上下水道事業経営審議会を行い、料金を決定する予定。また、共和浄水場については、廃止する場合は安川地区まで佐久浄水場からの圧送設備の新設が必要となる。総体的な検討が必要。

教育委員会関係（歳出）

【問】児童クラブは原則、月曜日から土曜日までの開所だが、事前の利用希望調査により土曜日の利用児童がない場合は閉所されている。これだと急に利用したいとなった時に、頼みづらいのではないか。

【答】突発的な利用についても対応しているが、開設当初は利用児童がいないのになぜ開所するのかとの事例が多数あった。保護者会との意見交換も踏まえ、引き続き検討したい。

【問】学習支援担当専門職員は現在どのような業務を行っているのか。学校との協力関係は。



児童クラブで勉強する児童たち

答児童生徒の学力向上を主眼として、児童クラブやなかがわ塾の中での指導助言や、学力向上に向けた分析を行っている。授業時の直接指導は行っていないが、小中学校と連携し生徒の苦手分野の克服などを進めていきたい。

問近年は猛暑が続いており、子供たちのためにもプールの開設期間を長くしてはどうか。

答小中学校のプール授業日程や一般利用者の推移、外気温や水温と燃料消費、現在は音威子府村の小中学校

の利用もあるため、それらを考慮して開設期間を決定している。予算にも限りがあるが、適切な開設期間を検討したい。



スキー場で体力づくりをする子どもたち

問人口の減少が進み、町の財政も厳しい。まもなくバイパスが開通するが、音威子府スキー場の広域利用も検討する時期ではないか。また、中学校の体育館玄関改修により夜間や休日に団体利用が可能となったが、トレセンの利用休止も検討してはどうか。

答スキー場は設備の老朽化が進んでおり、関係団体とも大規模な修繕が必要とな

った時には廃止か、との機運はある。トレセンはアリーナの利用を休止しても、屋根雪が落ちる最低限の温度を保つ必要があり、燃料費は変わらない。管理人を置かずに開館できないか検討している。

問新しい学校づくり検討委員会を設置し、義務教育学校などの議論をする予定と聞いていたが、進捗はあるのか。

答教育長が交代したこともあり、教育全般について見直しを進めてきた。他市町村で義務教育学校がいくつか開校しているが、小中両方の教員免許を持つ教員が少なく、人材確保が困難な状況に直面している。

現在、学校運営協議会の中で体育祭や学校祭などを小中で一本化できないかなど、ソフト面の連携議論を進めている。

監査の総括意見

8月下旬の8日間、監査委員2名による決算審査が行われ、関係書類や諸帳簿等を審査したほか、各担当課から事業内容や施設の管理状況等の聞き取り、現地調査を実施しました。監査の総括意見は次のとおりです。

令和6年度一般会計ほかの決算関係書類について審査し、概ね適正に処理されていると判断した。

財政状況は厳しさを増しており、まだ削減できるところがあるように考えられないか再確認し、事業を進めてほしい。注意、改善事項は次のとおり。

- 1) 財政支援団体への予算の厳格化と、支援団体における経理の明確化
- 2) 町税、住宅料、水道料の滞納整理の推進
- 3) 特定職員の勤務時間が過重にならないよう配慮する事
- 4) 各課事業の再検討を行

い、事業の統廃合や予算の圧縮を図る事

- 5) 予算作成時の経費圧縮・削減の徹底(当初予算・補正予算)
- 6) 町管理建物の整理処分(使用していない住宅、車庫、物置など)

基金が減少する中、今後は大きな事業も待っている。職員の英知を結集し、少ない経費で事業が進められるよう考えること。町長を先頭に全職員一丸となつて住みやすく暮らしやすい町を作る努力をお願いする。

(一部抜粋)

代表監査委員 安西 克己
監査委員 平木 総司

上川町を訪問し、 議員報酬と交流施設を調査

議会改革特別委員会では議員報酬の見直しについて検討しています。その参考とするため、9月3日に上川町議会を訪問し、濱田純子議長と事務局長から、議員報酬の見直しの経緯について説明を聞きました。

上川町議会では、令和2年10月に議会活性化特別委員会を設置し、住民アンケート調査や団体との意見交換などを実施して、議会活

性化の課題について調査研究を行っています。

また、議員報酬については令和4年12月から議論が開始されました。全国的に議員のなり手不足が課題となっており、その要因の一つが生計が維持できないほどの低報酬であることから、見直しが必要だろうとの趣旨です。

アンケートの分析や各団体の意見聴取、議員の活動実績の集計、道内の他町村との比較などを調査検討し、町との協議や特別職報酬等審議会の答申を経て、令和6年4月から17万9800円が20万円に引き上げられたとのことです。

中川町議会でも前回の議員選挙が24年ぶりに無投票となったことや、なり手不足への危機感から議員報酬の見直し議論を行っています。今回の上川町議会の経

緯を聞く中で、住民へのいいないな説明や幅広い意見の集約が大事だと学んできました。



交流施設ポルトの視察のようす

また、上川町内に令和3年10月に開設された町の交流・コワーキング施設「ポルト」もあわせて視察してきました。

移住者や協力隊員と町民との交流拠点としての機能や、移住や観光の相談窓口、デスクワークや放課後の勉強スペースなどがある施設です。

現在、本町の旧大永建設事務所で改修が計画される交流施設の参考として大いに役立つ視察となりました。

地域おこし協力隊と 意見交換を実施

意見交換を実施

11月1日(土)、地域おこし協力隊と議員との意見交換会が鰯龍(きりゅう)にて開催され、議員3名と協力隊8名が参加しました。

これまで町民の皆さんから「協力隊の活動状況がわからない」との意見や、私たち議員も直接話をする機会が少なく、面識のない隊員もいることから、中村直弘隊員を中心に準備いただき開催したところです。

意見交換会では、協力隊から自身の活動状況や、3年間の任期終了後の夢なども聞かせていただき、また、住民の皆さんからの期待の声、議会で出された議論など、様々な意見交換をすることができ、有意義な時間となりました。

協力隊からは、今後このような会を開催していきたいとの声がありましたので、都度開催しながら意見

交換、交流を深めたいと考えています。

また年に2回ほど協力隊の活動を報告する広報や報告会が開催されるとのことなので、町民の皆さんもぜひご覧いただきたいと思



協力隊と議員の意見交換のようす

「温泉」と「特養一心苑」の改築を 町と協議しています

～中川町議会公共施設建設調査特別委員会の開催状況～

第2回 7月31日 温泉施設の改築計画の進捗について

【町からの報告・説明】

- ・温泉宿泊施設改築基本設計の設計業者の選定を、町がプロポーザル方式で進めてきた。3社から技術提案書の提出があり、選定の結果、(株)アイエイ研究所（旭川市）が選ばれ、基本設計委託業務に進む予定。
- ・選定された技術提案書の内容は、「少人数でも上質なサービスが提供可能で、コンパクトで平屋、管理の効率化やインフォメーションの集約」「自然の豊かさを感じる温浴空間、中川らしいサウナ、解体跡地の活用」など。
- ・今後は各課や地域開発振興公社、住民の意見・要望などを反映し、本年度末までに基本設計を決定したい。

【議員からの質疑・意見】

- ・借入金の償還見込みに無理はないのか。
- ・収支バランスが合う施設でなければならない。今後も協議・検討が必要。
- ・インターネットだけではなく、住民説明会の開催を実施されたい。
- ・バリアフリーで高齢者も安心して入浴できる施設を。

第3回 9月10日 議員間にて特養の建築場所について協議

- ・8月21日に総務常任委員会で、特養の現地調査を実施して意見交換を行った。新施設は、他町村の例を見ても黒字化は難しいとのこと。また、建設場所は制約がなければ診療所の併設が好ましいとの意見を聞いた。
- ・診療所に併設するには寿の家の機能移転、用地買収などが必要となるが、救急時もすぐに受診できるメリットは大きい。町長にも診療所併設を検討してほしい旨を相談済み。
- ・建設費やスペースの確保、社協業務の総合的な効率化など、判断材料は多岐にわたるので、町の検討結果を待って次に進みたい。

第4回 11月7日 特養の建築場所について、町が案を提示

【町からの説明】

- ・診療所への併設について検討したが、寿の家の解体、用地買収、建設の遅れ、RC造と木造の接合、総体的な費用などに課題があり難しいと考える。
- ・(A)デイサービスセンターへ特養の増築、(B)旧グループホームを特養とデイサービスに増改築、(C)旧グループホームに特養のみ増改築の3案を検討した。各案ともメリット、デメリットがあるが、(B)案が職員配置が一カ所で効率的、運営コストが低減できる、工事中もデイサービスの休止が不要など一番望ましいと判断している。

【議員からの意見】

- ・診療所併設については、利用者・働く側にとっても望ましい、寿の家は他の施設で代替可能ではないか、用地買収が少なくて済むようレイアウトなど十分に検討してはどうか。
(⇒町で再検討して、再度、議会と協議することに。)

議会目録

7月

31日 第2回公共施設建設調査特別委員会

8月

2日 中川まつり
16日 納涼盆踊り大会
19日 北海道町村議会広報研修会【札幌市】
21日 総務常任委員会現地調査
28日 西天北五町衛生施設組合議会定例会【幌延町】
31日 第54回中川町スポーツ少年団創立記念剣道大会



熱戦が繰り広げられた剣道大会

9月

1日 水槽付消防ポンプ自動車納車式

2日 第12回全員協議会

3日 第6回議会運営委員会
議会改革特別委員会所管調査【上川町】

6日 中川中学校学校祭
10日 第13回全員協議会

第3回定例会（一般質問、議案審議）
第3回公共施設建設調査特別委員会



和やかに行われた敬老会

11日 中川町敬老会

14日 秋味まつり、北海道丸太押し相撲大会

29日 第3回定例会（決算審査）

30日 第14回全員協議会
第3回定例会（決算審査）

第4回広報特別委員会

10月

2日 上川町村議会議長会議

長研修会【南富良野町】

9日 北・北海道高速交通フォーラム

11日 幼児センター発表会
17日 上川北部市町村議会議長会定例会【美深町】

18日 中央小学校学習発表会
22～25日 町議会調査

【岐阜県飛騨市ほか】

26日 秋季消防総合訓練

11月

6日 上川町村議会議員研修会【旭川市】

7日 第4回議会改革特別委員会

第4回公共施設建設調査特別委員会

第15回全員協議会

YouTubeで一般質問を配信中

町議会では、議会を身近に感じてもらおうと、昨年4月から一般質問をYouTube（ユーチューブ）で録画配信しています。「中川町議会」と検索するか、下記または一般質問のページのQRコードをご利用ください。



中川町議会のチャンネル

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



▲YouTubeの配信画面

編集後記

今号では、定例会での一般質問や決算審査で議決された内容、地域課題、調査活動などについてご紹介しました。議会の取り組みが、町民の皆さまの暮らしにどのような関わっているのかを知っていただく一助となれば幸いです。

12月、中川町はいよいよ本格的な冬を迎え、雪景色が広がる季節となります。日々の除雪や寒さへの備えが必要になる一方で、年末に向けて慌ただしくなる時期でもあります。体調管理には十分ご留意のうえ、どうぞ健やかに新年をお迎えください。

今後も、よりわかりやすく、親しみやすい紙面づくりに努めてまいります。

（英責）

議会広報特別委員会

委員長 佐々木英和

委員 若山 真一

